



新シーズンも皆さんの
思いを受け止め、
B1で戦える
力を定着させます。

Closeup Interview

クローズアップインタビュー

志村 雄彦 氏

しむら・たけひこ

株式会社仙台89ERS 代表取締役社長

プロフィール

1983年2月14日生まれ。仙台市出身。10歳でバスケットボールを始める。1998年、仙台市立仙台高等学校に進学し、全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会(ウィンターカップ)連覇、国民体育大会優勝などを経験。2001年、慶応義塾大学に進学。4年時に関東大学リーグ、全日本大学バスケットボール選手権大会(インターカレッジ)で優勝し、MVPを受賞。2005年、東芝(現・川崎ブレイブサンダース)に入団。2008年、仙台89ERSに入団。2017-18シーズン終了後に現役を引退し、同チームのゼネラルマネージャーに就任。2020年7月より現職。現役時代のポジションはポイントガード。余暇は家族と過ごす。

【概要】

株式会社仙台89ERS

代表者 志村 雄彦
事業内容 プロバスケットボールチームの運営、試合興行、バスケットボールスクールの運営などを行う。

所在地 仙台市太白区あすと長町1-4-30 S101
TEL 022-281-8562
HP <https://www.89ers.jp>

― 仙台89ERSは、2022年5月にBリーグ(※)のB2ブレイオフを勝ち抜き、2016-17シーズン以来、6季ぶりとなるB1復帰を果たしました。はじめに、B1昇格が決定した際の率直な感想をお聞かせください。

黄援^{おんえん}していただいた皆さんの思いをチームがしっかりと受け止めて、それを「昇格」という良い結果に結びつけられたことに、私自身、心からほっとしたというのが正直な感想です。プロスポーツチームとして、黄援に対する感謝の気持ちを昇格という形で恩返しできたことは、地域にとって明るいニュースになったと思いますし、多くの方々に喜んでいただいたことで、チームとしても大きなやりがいを感じることができました。2020年からの2年半余り、お客さまの入場制限をはじめ、あらゆる面で新型コロナウイルスの影響に左右されました。それでもB1に復帰できたのは、黄援してくださる仙台市民の皆さんやファンの皆さんをはじめ、たくさんの方々の支えがあったからこそ感謝しています。

― 次に、2022-23シーズンにおける戦い方や取り組みについてお伺いします。まず、チーム運営についてのお考えをお聞かせください。

今後のチーム運営に大いに関わることで、現在、Bリーグが2026年10月に向けて進めている構造改革があります。

地域全体で
B1昇格へとチームを
押し上げてくれたと
思っています。



6季ぶりのB1復帰を決めた香川ファイブアローズ戦直後の選手たち(5月16日)。

※Bリーグ
2016年に設立された国内男子プロバスケットボールリーグ。2つのリーグ(B1、B2)が存在し、各リーグ内で優勝を争う。

試合成績による昇降格が撤廃、新たな基準のライセンス制度が制定され、私たちが所属するB1だけではなく、リーグ全体の基準が引き上げられます。

新B1に求められる要件は、「①入場者数2期連続で平均4000人以上」「②売上高12億円以上」「③新設アリーナ基準充足」の3つで、これらを満たしたクラブが参入できるというものです。残念ながら、現状、私たちはこれらの基準を3つとも満たしておらず、新しい要件は非常に高いハードルと言わざるを得ません。しかし、今シーズンから参入にあたっての審査の対象期間となっていますので、試合に勝つことはもちろんですが、1試合あたり平均4000人以上のお客さまに来ていただくことを目標に、シーズン30試合で総入場者数10万人を目指していきます。

B1にしっかりと定着し、さらに新B1参入も意識しながら活動する。これが今シーズンのチーム運営のビジョンです。

この高いハードルをクリアするためには、私たちの経営努力は必須です。その上で、「黄援してくださるファンの皆さんと一緒に」をテーマに、新B1参入を成し遂げたいと考えています。アリーナへの集客は街のにぎわいの創出にもつながり、経済効果の面でも意味のあることだと考えています。そして何より、私たちは、地域密着ナンバークラブであり続けることを目指しています。その点でも他のクラブには負けたくないですし、クラブ名に「仙台」という冠を付けさせていただいていますので、地元の皆さんの思いも背負いながら、B1での戦いを展開していきたいと思っています。

― チームの戦力強化については、どのようにお考えですか。

B1に昇格したことで、今後は非常に厳しい戦いになっていくと思います。B1に所属する24チームは、何年もかけてチームづくりを行って優勝を狙っているわけです。私たちは、昨シーズンは7割以上の勝率を達成しましたが、昨年と同様のプレーをするだけで勝るとは思いません。皆さんに背中を押ししていただいて、1つでも多くの勝ち星を積み上げたいと思っています。私は仙台、東北の出身ですが、東北の人たちは寒くてつらい時期が長く続いても、花が開く春の訪れを心待ちにしている人たちであると思っています。その期待に応えるためにも、泥臭く、粘り強くという意味のスローガン「Grinder」を合言葉に、ハートの部分でも負けない、そんなチームの文化を引き続きつくっていききたいと思います。

今回、B1への昇格が決まり、改めてスポーツチームの存在意義について深く考えました。その結果、私たちのような地域に密着したスポーツクラブは、地域ロイヤルティ(信頼・愛着)を体現する場所であり、表現する場所でもあるという考えに至りました。例えば、「アリーナに試合観戦に行くから、勉強を早く終わらせよう」とか、「ナイナースが頑張っているから自分も仕事を頑張ろう」というように、皆さんの365日のどこかしらに私

たちが顔を出すようになりたいと思います。

― 仙台を拠点とするプロバスケットチームとして、地域との関わり方についての考えをお聞かせください。

私たちは2020-21シーズン、東日本大震災から10年という節目に、「ナイナースがつなぐ『地域』と『未来』というコンセプトの下、地域の皆さんと未来の子どもたちに対して、「NINERS HOOP」と銘打ち、さまざまな活動をスタートさせました。さらに、この活動を拡大して、豊かな社会づくりや、元気の仙台的まちづくりに貢献できるように、SDGsにもクラブ一丸となって取り組ん

Closeup Interview

「仙台の誇りである」と思っていたらいいようなチームを目指します。



でいます。世界にはまだ多くの課題がありますが、ファンの皆さん、地域の皆さん、そしてチームに関わるすべての方々とともに、スポーツの力を通じて地域社会の課題解決に向き合い、持続可能な未来に向けて活動していきます。

NINERS HOOPの「HOOP」とは、英語でバスケットのリングのことを、「輪をつくる」「みんなをつなぐ」という思いを込めました。活動の一例をご紹介しますと、ホームアリーナがある長町周辺を中心に町の緑化に取り組み、黄色の花で町をチームカラーであるナイナースイエローで染める「イエロープロジェクト」という活動や、試合会場に「ナイナースフードバンク」を設置して、何かしらの事情があつて廃棄される食品を必要としているところにお届けするという活動を行っています。また、「絵本を通じて親子の時間を創出し、明るい未来へつなぐきっかけを作りたい」という思いの下、ホームゲームで私たちが勝利した分の絵本を親子や施設等に寄贈させていただき、仙

できる青年部は、大変貴重なコミュニケーションであると感じています。

― 今シーズンの注目選手を教えてください。

注目していただきたいのはもちろん全選手、全試合ですが、特に、先ほどの話題で触れた片岡大晴選手は仙台の出身で、「仙台の皆さんと一緒に戦う」という強い思いを持っています。チームのシンボリックな存在でもありますので、ぜひ黄援していただきたいですね。

― 最後にシーズン開幕にあたっての抱負と、読者である地域企業の皆さんにメッセージをお願いします。

まずは、B1で戦える戦力をそろえ、日本に向けての基盤を作るシーズンにしたいと考えています。そのためにも、一人でも多くの方に試合を見に来ていただき、「ナイナースのバスケットはおもしろい、がんばってほしい」と思っていたらいいかなと思います。スロージャーも、2018-19シーズンから掲げてきた「Green!」を引き続き継承



片岡大晴選手は184cm、80kgのシューティングガードで、コールネームは「ソルジャー」。2021-22シーズンは、48試合の出場で30.8得点(平均6.4得点)、3ポイントシュート成功率46.7%を記録している。

出身の片岡大晴選手の発案による「空飛ぶ絵本プロジェクト」という活動も行っています。

地域が抱える課題の解決にも、私たちが持つコンテンツが役立つと思いますので、さまざまな観点から課題解決に協力したいと考えています。皆さんが抱えている困りごとを直接伺いできれば、より内容の濃い活動となっていきます。そのためにも、コロナ禍で直接、お会いする機会が減ってしまいましたが、新しいコミュニケーションの形を探りながら、皆さまにお会いできる方法も模索していきます。

し、どんなに苦しい状況でも粘り強く、泥臭く、懸命に乗り越える姿をお見せしたいと思います。

コロナ禍で思うように外出ができなかったり、状況によっては旅行にも行くことがためらわれることもあります。会場では万全の感染症対策を講じていますので、ぜひ私たちの試合に足を運んでいただき、「仙台にこんなに面白いコンテンツがあるのだ」ということを知っていただきたいと思います。

経営者の皆さんも、私たちと一緒に日本一を目指していきましょう。先ほどお話しした通り、今季からの入場者数などが新B1参入の審査対象となります。クラブ単体で要件を満たすのは大変難しい状況にありますので、ぜひ皆さんの力を貸してください。仙台の誇れるものとしてスポーツがあり、その中でも「仙台89ERSはこの町の誇りである」と思っていただけのようなクラブを目指していきますので、黄援をよろしくお願いいたします。

本誌では、10月22日にカメイアリーナ仙台(仙台市体育館)で開催される信州ブレイブオリアーズ戦のペア観戦チケットのプレゼント企画を実施しています。応募方法等の詳細は、本誌16ページ「がんばれ! 杜の都マイチーム」をご確認ください。

― 志村社長は仙台商工会議所青年部にも所属されていますが、若手経済人とのつながりの中で得られたことなどがあればお聞かせください。

青年部に所属している方々のお話を聞くことで、街や経済のさまざまな動きをキャッチすることができ、仙台が抱える課題についても情報を得られるため、非常にありがたいと思っています。バスケットボールだけをやっていると、どうしても自分の意識だけで視野を広げるのは至難の業です。そこで、新しい情報や多彩な刺激をいただける人たちとつながることが



2022-23シーズン プレシーズンゲーム、仙台開幕戦(ホーム) 試合日程

試合日	時間	対戦相手	会場
9月24日(土)	15:00	福島ファイヤーボンズ	ゼビオアリーナ仙台
10月14日(金)	19:05	宇都宮ブレックス	
10月15日(土)	14:05		

各試合の詳細は、仙台89ERSホームページよりご確認ください。

より良い環境をめざす。

青葉環境保全 AOBA

〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)